

ぐりふぁん letter



Vol.
35
2018.2

INDEX

- ◆ 美山おひさまプロジェクト～2012田歌舎
設置協力金の返済が無事終わりました …… 2
- ◆ 2017年度環境学習
～平和堂財団環境保全活動「夏原 Grant」助成を受けた環境学習～
～上鳥羽エコまちプロジェクト 2017～ …… 3
- ◆ おひさま発電所ができてから… …… 4
- ◆ ラオスの電力事情 ～ラオス視察記～ …… 5
- ◆ エコテック解散の報告と今後のこと …… 6
- ◆ 会員さん、こんにちは！
Gochisoを通じてきょうとグリーンファンドに寄付を…
編集後記 …… 7

認定特定非営利活動法人(認定NPO法人)



美山おひさまプロジェクト ～ 2012 田歌舎 設置協力金の返済が無事終わりました



藤原 誉

田 歌 舎

設置協力金をお返しするという節目のご挨拶として、あれから7年後の今の世の中に感じることを率直なメッセージにして挨拶に代えさせていただきます。

田歌舎に発電所が出来て5年が経ちました。つまり震災後もうすぐ7年ということですね。この7年の中で、まだ右肩上がりの経済を求める象徴のごとく東京オリンピックの誘致が決まり、かつて以上に政治は混迷を極め、信じるべき政党など何一つ見あたらない。そして若狭の原発は再稼働に邁進し、私たちの美山町では再稼働を前提にした原子力防災訓練などが町民を巻き込み大がかりに取り組み、関電と行政が共催で開催される説明会では、再稼働を前提としてその事故をあり得ないことと(万々一と)言い張る始末。



さて、田歌舎はおかげさまで自然を活かした狩猟、採集、農耕、牧畜といった営みを少しずつではありますが精度を上げてきて、来年15周年を迎えます。多くのお客様に体験や食事を通して持続可能な社会、暮らしの楽しさや豊かさを伝えてくるのが出来ました。視察や研修として訪ねてくる団体も多くあります。そして田歌舎に集まる学生、そして新しいスタッフも多くなりました。ささやかな規模の活動ではありますが、同じように頑張っているたくさんの友と出会い、私たち側の価値観を持つ人も日本各所にいること、そして少しずつ増えてきていることを日々実感し、喜びを感じています。

貧富の差と同様に価値観の差も両極端な時代になっているのだろうと思います。これからも田歌舎が目指すことは豊かな自然との共生、平和、人の手の技術、お金でない豊かさです。そこにはきっと笑顔が絶えないはずです。

田歌舎が続けるふくしまの子供たちの受け入れも5年(春夏計9回)を超えました。今では中学生となった子供たちはあと何年かすれば田歌舎のスタッフになる子もいるかも。保護者を含めての出会い、強い絆、信頼が今確かにあります。



2017ふくしまキッズ スタッフと子どもたち

67枚のソーラーを入れました。まだまだエネルギーを100%自給できるわけではありません。ガソリンや灯油や化石燃料はお世話になるばかり。私たちもまだまだ進化しなくてはなりません。その決意を促したのがあの原発事故なのです。

設置協力金をお返しする時がきたと報告を受けました。おかげさまで倒産することなく、お返しすることができます。心より感謝申し上げます。そして発電機も引き続き発電することと同様、引き続き田歌舎は信じた道を進みます。ご支援いただければ幸いです。

事務局から

田歌舎におひさま発電所を設置する際、230万円の設置協力金を18名の方々が出してくださいました。設置協力金は10万円/1口、5年後に一括でお返しする約束で、この度、その約束の日がやってきたというわけです。返済分は発電収入から、分割できようとグリーンファンドがお預かりし積み立ててきました。もちろん利子はつかず、おまけにおひさま基金への寄付を合わせてお願いするという、まことに厚かましい仕組みです。

しかしながら、設置時の厳しかった資金繰りに大いに力を発揮したことを思うと、快く協力してくださった方々には、今改めて感謝の念が沸き上がります。そして、無事お返しできたことに、ほっとしています。

みなさま、本当にありがとうございました。



～ 平和堂財団環境保全活動「夏原グラント」助成も 受けた環境学習～

今年の環境学習は計15件、その内8件は平和堂財団環境保全活動助成「夏原グラント」の助成を受けました。お陰で、環境学習から遠ざかっている園や、太陽光発電を設置していない施設にも、環境腹話術や職員研修を実施することができ、手ごたえを感じました。

「環境に配慮していたつもりでしたが、久しぶりに環境腹話術を拝見して、少し意識がゆるんでいたのに気付きました。これから気持ちを新たに取り組みたいと思います。」と感想をいただき、「繰り返しが大切」と私たちも思いを新たにしました。

おひさま発電所でない施設の子どもたちは、環境腹話術を見ても反応があまりなかったことから、今回は事前に「エコすごろく」を提供して、「エコ」に馴染んでもらうことにしました。すると、「シンちゃん」の問いかけに、子どもたちからすぐに答えが返ってきて、理解が進んでいるようでした。「エコすごろく」プラス環境腹話術の組み合わせが、導入時のプログラムとしてかなり効果的なことがわかり、広げていきたいと考えています。

「エコすごろく」は、環境学習に馴染みのない施設でも、導入として抵抗なく受け入れてもらえたことから、さらに多くの施設に提供するため、次年度は職員対象の「エコすごろく」作成ワークショップを予定しています。また、環境腹話術講師の畠山さんに助言をいただきながら、より効果的な進め方を検討していきたいと思っています。

幼い子どもたちへの環境学習は、意識改革の効果が認識されているにもかかわらず、まだまだ不十分です。きょうとグリーンファンドの環境学習は、幼い子どもたちを対象として実施している数少ない活動の一つです。さらに内容を充実させながら環境学習に取り組む施設を広げていきたいと、次年度も「夏原グラント」の助成を申請中です。

11/2 むそう幼稚園
環境腹話術&おひさま学習会
「地球温暖化と豊かな暮らし」



お母さんたちは、それぞれの「エコ」を披露。マネしたい「エコ」もいっぱいでした。



「買い物袋持っていくひと?」「はい」
未来は、子どもたちのものですから。

(きょうとグリーンファンド 山本 照美)

～ 上鳥羽エコまちプロジェクト 2017 ～

京都市上鳥羽北部いきいき市民活動センター(以下いきセン)はおひさま発電所となって3年目、地域のみなさんと一緒にエコ活動を進めています。今年度は、今までの活動に加え、「上鳥羽でエコを探す!エコ散歩」を開催しました。何をするのかというと、みんなでまちをキョロキョロ…まずは今あるエコを探してエコMapをつくらう…というものです。

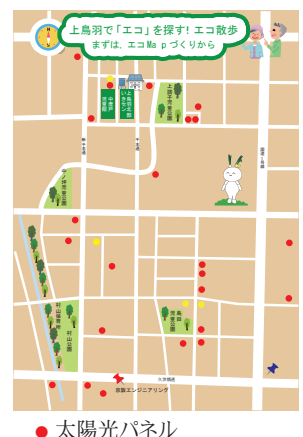
まずは「エコなまちってどんなまち?」と題してひのでやエコライフ研究所の山見拓さんからお話、そしてちょっと怪しい集団がいきセン周辺をキョロキョロお散歩。でもこれが意外と楽しかった。ゆっくり歩いてみると、屋根には太陽光パネル、太陽熱温水器が所々に…参加者のみなさん、屋根を見るのがクセになりそうといいながら、わがまちの「エコ」探しに真剣に取り組みました。

薪ストーブ・暖炉の専門店「京阪エンジニアリング」さんのショールームにもお邪魔して、薪ストーブの温かな炎にほっこり。参加者のお一人、高橋さんのお宅では、手作りの雨水タンクを見せていただきました。お庭には干し柿がずらり、ていねいな暮らしの豊かさを感じました。

いきセンに戻って、探した「エコ」をMapに書き込み、完成させました。今後、これをもとに上鳥羽のまちがより一層「エコ」なまちになるよう、きょうとグリーンファンドもお手伝いしていきたいと思ひます。

【おめでとうございます! 京都環境賞エコ学区奨励賞 受賞】

いきセンのこれまでの取組が評価され、このたび第15回京都環境賞エコ学区奨励賞を受賞されました。「地域とセンターをつなぐ“おひさま発電所”と環境への取組」受賞テーマ。「おひさま発電所」がエコ活動のシンボルとして地域のみなさんのお役に立っているようで、きょうとグリーンファンドにとってもうれしい受賞です。これからも、一緒に頑張りましょう。



● 太陽光パネル

(きょうとグリーンファンド 北川 井子)



認定NPO法人きょうとグリーンファンド

おひさま発電所ができてから…

2000年から始めたきょうとグリーンファンドの活動は、18年目となり現在21カ所のおひさま発電所が稼働しています。設備能力の合計は106kWを超えましたが、私たちは当初から設備設置だけに終わることなく、環境に対する意識を変えてもらうことも目的としてきました。地球の未来には「エコ」な子どもや大人が大切と、環境学習に継続的に取り組んできましたが、さて、本当のところはどうだったのでしょうか。数値では測れない意識や行動の変化について、おひさま発電所となった施設からいただいた文章や、書いていただいたものから拾ってみました。

あけぼのこども園

(きょうとグリーンファンド)

あけぼの保育園は、保育園としては初めておひさま発電所となった保育園です。「太陽光発電設備設置場所を募る」という見出しの新聞記事がきっかけでした。あけぼの保育園の園長、矢島先生は「…幼いときから自然に興味や関心や親しみを持ち、自然とのふれあいを通じて、自然・地球環境の大切さを感じ、守り、愛する心を育てていきたい…」という思いをもっておられたので、この小さな記事に目を止め、すぐにご連絡をいただきました。

「スイッチひとつで電気がつくという便利な時代のなかで、子ども達が少しでも限りある地球資源について、関心が持てるように、地球環境に少しでも関心が持てるように…」というあけぼの保育園の思いが、「おひさま発電所」という形になってから2年後、「エコロジーを保育園のお子さん達と一緒に考えるという事は少し難しいことではありますが、わたし達のくらしに当たり前のことのようにして使われている電気や水などは、みんな自然からの恵みだということを、お子さん達なりに感じてくれているのではないかと思います。」と書いておられます。5歳児くらいになると、保育士：「あけぼの保育園のお部屋の電気は何からできていると思う？」Aちゃん：「おひさまがつくってこれている！」保育士：「おひさまががんばってくれているし電気を大切にしないとね」Bちゃん：「しってる節約っていうんだね」といった会話ができるようになったとか。

太陽光発電だけでなく雨水タンクの設置による水の循環や大切さも学習。エコ夏祭りでのごみの減量化ではリサイクルからリユースへと進み、とうとう3年目には「ごみゼロ」にまで到達してしまいました。活動は園内にとどまらず地域のイベントでも取り組みを紹介するなど、外部にもどんどん発信されています。これは何よりも園長先生をはじめ保育士さんやスタッフの積極的に自己変革的な取り組みによるもの、設備設置というハード面だけではなく、園が地域の環境問題解決の拠点として機能するというソフト面での私たちの期待を、予想を超えて実現しておられます。きょうとグリーンファンドでは、他の施設へのはたらきかけの際の参考とさせていただきます。

夢窓幼稚園

園長 升光 泰雄 さん

子どもたちは「おひさま」が大好きです。

ほどよい春や秋の季節はもちろん、暑い夏のおひさまの下でも、汗びっしょりになって遊んでいます。冬にはいっぱい動き回った後に、ひなたぼっこをしながらのおしゃべりが楽しそうです。そんな子どもたちですから、「おひさま」が電気を作っていることを知って、まえよりもっとおひさまが好きになりました。

どのくらい電気が今生まれているのかが分かる表示盤の前で、「がんばれ！」と応援している子どもたちもいますよ！発電所をきっかけにして、小さな子どもたちでもCO₂のことを勉強しました。

大人も子どもも、自分たちが生きる「大地とおひさまの間」のことを、自分たちの大切な場所としてもっと受けとめられるようになった気がします。だから貯まった雨の水も大切です。落ち葉も次の草や花や野菜を育てる力があることを知り、皆で集めるようになりました。昨年、幼稚園の部屋を新しく作り変えるときに、京都で生まれ育った木を使って建ててもらうことを思いつきました。

胸をはって声高に表現しようとは思いませんが、生活のひとつひとつの場面で「私」は何を大切に生きていきたいのか…ということ、一人ひとりが感じ考えられるようになってきたのかもしれない。

おひさまも大地も水も風も大好きで大切に思って過ごせたら、そうでない時よりも心がゆっくり、ゆったり自分らしく生きられるような気がしています。毎年大きくなって巣立っていく子どもたちの心の中でも、そんな思いが豊かにふくらんでいっているのに違いありません。

生活の中で静かに、しかし確かにつながり続けられる環境への思いから、少しでも納得のいく社会の未来がつむがれていることを願っています！

ラオスの電力事情

～ラオス視察記～

龍谷大学 経済学部 教授 松岡 憲司 (きょうとグリーンファンド理事長)

ラオスの電力に注目が集まっているようです。2017年12月25日から27日にかけてMBSテレビの人気番組“ちちんぷいぷい”でラオスが取り上げられました。その中で「東南アジアのバッテリー」してラオスの水力発電所建設現場の紹介がありました。メコン川という豊富な水力発電資源をもつラオスは輸出の約25%を電力が占めるというユニークな国です。国際河川であるメコン川は、本流で16,000MW、支流で26,000MWという膨大なエネルギー源があると言われており、それを活用して電力輸出によって外貨を稼ぐという政策を立てています。

ラオスの電力開発には古くから日本が深く関わってきました。ラオス最初の大型水力発電所であるNam Ngum1の建設にあたり1966年にNam Ngum開発基金協定が結ばれ、無償援助17億8600万円が供与され、Nam Ngum1の1期工事は1971年に完成しました。この事業にはコンサルタントとして日本工営が、下請事業者として間組など多くの日本企業も深くかかわっており、「ラオスにおける日本の支援の象徴的存在」と言われています。このNam Ngum1のダム湖は福岡県の面積に匹敵する湖面積をもち、小島が点在しており日本三景の松島のような風景で、遊覧船も浮かんでおり外国からの観光客も訪れる観光地になっています。さらにそのずっと以前、1956年に久保田豊氏という方が後にラオスの国家主席となるスファヌボン殿下に水力発電を奨め、Nam Ngumの現地調査や、世界銀行からの融資の取り付けなどにも尽力したといえます。

2016年の総設備容量は6,373.18MWで、この3年で倍増しています。内訳はエネルギー工業省の監督下にあるラオス電力公社(EDL)が3.9MW(全体の0.1%)、EDLの発電子会社EDL-GENが387.0MW(12.0%)、IPPは2800MW(87.0%)とIPPが圧倒的に多くなっています。IPPの設備容量の内、大部分は輸出専用で設立されたIPPです。輸出用に最初に建設されたIPPはノルウェーなどが出資して1998年に運転開始したTheun Hinboun発電所です。従来はすべて水力発電でしたが、2015年にHongsa Lignite 発電所という石炭火力発電所が運転開始しています。



昨年末に私は、Nam Ngum1発電所と建設中のNam Ngiep1発電所という2か所の水力発電所を見学する機会を得ました。

Nam Ngum1発電所は前述のとおり、1971年に日本の援助で建設されました。当初15MWの発電機2台の30MWでスタートしましたが、現在5基の発電機で定格出力155MWの容量をもっています。さらに日本の援助で6基目が、中国の資金で7基目、8基目が建設中で、すべて完成すると275MWとなります。6基目の工事現場では日本のゼネコンが工事の真っ最中でした。

一方Nam Ngiep1発電所は、首都ビエンチャンの北東約150kmにあり、メコン川の支流Nam Ngum川に建てられています。設備容量は主ダム272MW、調整ダム18MWで、2019年2月12日の運転開始をめざしています。主ダムの発電電力はすべてタイへ輸出することになっており、タイおよびEDLとの間で長期間の販売契約を結んでいます。この事業は日本企業が中心となってはじめて参画したIPPです。私が訪問した12月27日は、現地で建設工事に携わっている日本人約45人と、ラオス人の関係者が餅つき大会を開催し、親睦を深めておりました。ちょうどその日に放送された“ちちんぷいぷい”の録画が流され、多いに盛り上がっていました。



上：日本の援助で6基目の発電機の工事が進むNam Ngum1発電所
下：同じくNam Ngiep1発電所



エコテック解散の報告と今後のこと



林 敏 秋

きょうとグリーンファンド会員の皆様、ぐりふぁんレター読者の皆様。

長い間ご厚情をいただいていたりましたが、私が所属しておりました株式会社エコテックは、昨年10月末をもって会社を解散いたしました。まず、会社解散に伴いご心配とご迷惑をおかけしたことを心からお詫び申し上げます。併せて23年間に渡るご支援、ご協力に深く感謝申し上げます。

解散の理由は、太陽光発電バブル崩壊による業績の低迷、スタッフの高齢化、後継者育成の失敗などです。エコテックは株式会社という法人格でしたが、実態はワーカーズコープ（労働者生産協同組合）方式によって運営していました。働くものが自ら出資し、運営するというやり方です。事業の運営方針や賃金は全員の合議で決め、役員も選挙で選んできました。全員が経営者的な思考で運営するはずだったのですが、実態はかなりかけ離れていたのだらうと思います。後継者をうまく育成できませんでした。赤字になってから辞めるよりは、ご協力いただいた皆様にご迷惑をおかけする前にたたもうという話になりました。

久しぶりにゆっくりした年末年始を送り、新年になって以前から声をかけていただいていた、きょうとグリーンファンド（KGF）の事務局のお手伝いをする事になりました。現在のところ何の役にも立っていませんが、今後はKGFが取り組もうとしている新電力（PPS）を通じた再生可能エネルギーの拡大普及活動などを主に担当していく予定です。

2016年4月から始まった電力の小売自由化で、原発を推進する関電エリアの電力切替率は2017年8月末で100万件10%を超えました。しかし、日本の再エネの発電量の比率は7.3%（ISEP資料より）しかありません。殆どが化石エネルギーなのです。パリ協定発効で再エネ100%社会が目標となった現在、あまりにも寂しい状況です。もっともっと再エネ拡大に力を入れなければなりません。KGFでは市民共同発電所の普及拡大を行うとともに、再エネ拡大を目指す新電力との協力・協働も追及することになりました。

「太陽ガス」は、「市民発電所などと協力しながら再生可能エネルギー100%の社会を目指して」いる新電力会社です。九州の鹿児島ですが、最近「ハッピーエナジー」という代理店を通じて関西エリアでも販売を始めました。300社以上の新電力がありますが、このように高いココロザシを持った会社は余りありません。KGFは、思いを同じくする新電力と協力して共に再エネを拡大していこうと「ハッピーエナジー」と協力することになりました。これまでのおひさま発電所だけでなく、「電力会社との契約を変えることによって再エネの発電所を作る」という新しい選択が可能になります。是非ともご一考をお願いいたします。

エコテックの話にもどります。皆様の中には「おひさま発電所のメンテはどうするのか」と心配されている方もいらっしゃると思います。個人で設置していただいた方も同様です。エコテック解散時に設備のメーカーとフォローしてくれる会社の案内をお送りしているのですが、できる限り私個人としても対応させていただこうと考えております。そのために個人事業者として「再エネ工房」という商店を開業いたしました。太陽光発電のメンテや設計などを含む市民共同発電所の相談業務、太陽熱温水器・ペレットストーブ・雨水タンクなどの販売も細々と行っていく予定です。

KGF事務局として新電力との協力・協働、おひさま発電所設置に伴う現地調査・設備設計・施工業者とのコーディネートなども行いながら、再エネ工房の仕事も両立させていくつもりです。また、何かとご迷惑をおかけしますが、従来と同様に気軽に声をかけてくださいますようお願い申し上げます。

◆京都市伏見区にあります「喫茶うずら」です。

・・・田中孝征さん

京都市伏見区にあります「喫茶うずら」です。京エコロジーセンターから北へ歩いて5分のところにあります。うずらの目指すところは「made in 伏見」なお店です。

伏見区は京都市内では農作物がよく育ち農業の盛んな土地で、市内最大の28万人を超える多くの人が暮らし、歴史ある多様な文化があり、独立できるくらいたくさん資源があります。ほとんどのことが伏見でまかなえるはずですし、まかなっていききたいと思い「made in 伏見」なお店作りを目指しています。

国産小麦を使い無添加にこだわる地元のパン屋さんの「食パン」、田作りからこだわのお米を扱う地元のお米屋さんの選んだ減農薬の「お米」、同じ町内にあるピカイチの職人が焙煎する無農薬無化学肥料でフェアトレードの「コーヒー豆」を使用しています。野菜も出来るだけ地元産を使うように心がけています。また毎週水曜日には店頭にて無農薬無化学肥料で40年近く作り続けておられる伏見の農家さんの旬の野菜直売を続けています。

地域でお金も物も融通し流通させる、地域の自給率を上げる、そんなことを目指しながら美味しいコーヒーをお出し出来ればと思って営業しています。淹れたてのコーヒーと手間ひまかけたハンドメイドのスパイシーカレーを用意して皆様のお越しをお待ちしています。

喫茶うずら

京都市伏見区深草西浦町6丁目31番地
営業時間 午前9時から午後7時まで
定休日 日・祝祭日 TEL 075-642-8876
詳しくは<https://www.cafe-uzura.info/>

設立当初からの会員さん、これまでもイベントでの“おひさまコーヒー(寄付金付コーヒー)”の販売など、積極的に参加いただいています。
お店では、東日本大震災被災者支援のグッズ販売などもあり、ぐりふぁんのパンフも置かせてもらっています。
コーヒーとカレーはおすすめですよ。

Gochisoを通じて、きょうとグリーンファンドに寄付を・・・

[Gochisoウェブサイト <https://gochiso.jp/>]

「美味しいは世界を変える。」Gochisoはあなたの食事を通じて寄付を可能にする“Giving Platform”(ギビングプラットフォーム)です。Gochisoというウェブサイトを通じてレストランを予約でき、通常と同じ値段を支払うだけで食事代の一部がNPO団体に寄付されるしくみです。食事するだけでなく、同時に社会へのサポートを行うことができます。このたび、対象となるNPO団体にきょうとグリーンファンドも登録されました。

レストランの食事から、未来への寄付を!

現在、京都市内では、7か所のレストランが利用できます。

あなたの「美味しい」が未来への寄付になります。



編集後記

- ・再生可能エネルギーは、選ぶだけじゃダメです。使うエネルギーを減らすだけでも、ダメです。みんなで作らなくては!!、と世の中の関心の薄さに、つつい焦ってしまうのです。(K.O)
- ・今年度、保護者向けの学習会をして、温暖化問題は他人事ではなく取り組む必要があることを知ってもらいました。「日本は世界に遅れをとっている。自分たちが出来ることをやる!」と言ってもらえ、やりがいを感しました。(Y.F)
- ・地域で敬老サロンを開いています。お年寄りに、環境意識を持って自分でできるエコを実践してもらうためには、どのようにすればいいのかを考え中です。(T.Y)
- ・お年頃になったので読書用のメガネ、拡大5倍の手鏡に最近変えました見え方が鮮明に・・・現実を知って大事ですわね!(Y.M)
- ・新参者の「黒一点」として事務局のお姉さま方に可愛がって?もらっています。先日のNHKの瀬戸内寂聴サンじゃないが、男は薄く、女は豊かで深い!(T.H)
- ・Nスベ「激変する世界ビジネス・脱炭素革命の衝撃」を見ました。まさに衝撃を受けました。再エネに世界のビジネス界が舵を切る中、日本だけが違う方向に…ホントに先進国なのか??(S.K)

《 ぐりふあん日誌 》

- | | | | |
|-------|--------------------------------------|-------|---|
| 7/12 | 小規模保育園「せきゆめていふらんけつと」訪問 | 11/29 | 上里竹の子こども園訪問 |
| 7/19 | 再エネWG定例会議出席 | 11/30 | 安朱保育園訪問 |
| 7/22 | 上鳥羽自治連合会「夏の夜市」参加 | 12/5 | 第118回理事会 |
| 7/25 | 八幡市議員山田美鈴さん来室 | 12/8 | 「市民が進める温暖化防止京都のひろば」参加
／ユブイ京都 |
| 7/29 | 自然エネ協-学校見学会／上鳥羽北部いきせ | | 損保ジャパン日本興亜環境財団環境保全プロジェクト
助成決定 |
| 8/24 | NPO法人環境情報フロンティアpico取材 | 12/9 | 全国フォーラム「市民が進める温暖化防止2017」参加
／龍谷大学 |
| 8/25 | 夏原グランド新規団体交流会出席 | | 脱原発社会の実現に向けて～「脱原発宣言」城南
信用金庫の経験から／京都弁護士会館 |
| 8/30 | 環境腹話術／村山保育園 | 12/16 | 上鳥羽北部いきせ「ハピ-カズミ」参加 |
| 9/4 | 京都府再エネ導入促進プロジェクト委員会出席 | 12/18 | 環境腹話術／妙林苑
再エネWG定例会議出席 |
| 9/8 | 上鳥羽北部いきせプロジェクト打合せ
／上鳥羽北部いきせ | 12/20 | 環境腹話術／向島保育園 |
| 9/19 | 年賀寄附金使途監査／Cherry's Hug東向日園 | | 【2018年】 |
| 9/20 | 環境腹話術・見学会／つし保育園 | 1/18 | 環境腹話術／山ノ本児童館 |
| 9/27 | 環境腹話術／山ノ本保育所
再エネWG定例会議出席 | 1/24 | 「ペラダで太陽光発電しよう」①開催 |
| 9/29 | 第117回理事会 | 1/26 | 再エネWG定例会議出席 |
| 10/4 | 朝田教育財団訪問 | 1/31 | 「ペラダで太陽光発電しよう」②開催 |
| 10/24 | 自然観察会／つし保育園 | 2/1 | 安朱保育園訪問 |
| 10/27 | 自然観察会／大宮保育園 | 2/2 | 京都府地球温暖化活動推進活動連絡調整会議
出席 |
| 11/2 | 環境腹話術・学習会／夢窓幼稚園 | 2/3 | 「なぜ、すすまふ!?日本の再生可能エネルギー」参加 |
| 11/13 | 再エネWG定例会議出席 | 2/7 | 第119回理事会 |
| 11/14 | 洛北幼児園訪問 | | |
| 11/21 | 環境腹話術／上鳥羽保育園
あひまのこ同和損保株来室、寄附金目録贈呈 | | |
| 11/25 | 上鳥羽北部いきせ「エまち散歩」参加 | | |

□ 寄付のお願い

きょうとグリーンファンドの活動はみなさまの寄付によって
ささえられています。
おひさま基金へのご寄付は ゆうちよ振替をご利用下さい。

ゆうちょ銀行振替口座番号:00930-6-157817
加入者名:きょうとグリーンファンド

★2015年4月1日付で京都市から認定NPO法人として再認定されました。
認定NPO法人への寄付は、税法上の特別措置の対象になります。

会員数	70		
正会員	42	賛助会員	23
法人会員	5	2018/2 現在	



認定特定非営利活動法人(認定NPO法人)

きょうとグリーンファンド

〒600-8191 京都市下京区五条高倉角堺町21 事務機のウエダビル206
TEL/FAX ; 075-352-9150 E-mail ; info@kyoto-gf.org
URL ; http://www.kyoto-gf.org (火～金 13:00～17:00)

